

死んでも楽にならないよ

いじめで不登校 少女は語る

いじめが原因で中学時代に不登校になった県内の少女(15)が、毎日新聞の取材に応じた。自殺まで考えたが、K-POP(韓国のポップス)が「救い」となったという。現在は引きこもりの人を支援する非営利組織「アンガージュマン」によると、「死んだら楽になる」という気持ちは分かる。でも、楽にならなければならない。悲しむ人が増えるだけ。小さなことでも生きがいを見つけて」と呼びかける。

【内橋寿明】

「小さくても生きがいを」 大学進学目指し勉強再開

少女は赤い柄のヘッドホンを手に、ジャケットにジーンズ姿で現れた。街ではれ違つても、音楽好きな女子高生にしか見えない。

いじめに遭い始めたのは、中学2年だった04年5月。県外から県内の公立中に転校した1カ月後だった。「うざい」「死ね」。登校すると、自分の机に落書きがあった。「目つきが悪い」と男子生徒に容姿をはじめ、自宅にいても携帯メールで中傷の言葉が同級生か

いじめに遭い始めたのは、中学2年だった04年5月。県外から県内の公立中に転校した1カ月後だった。「うざい」「死ね」。登校すると、自分の机に落書きがあった。「証拠がない」と言われて。独りぼっち。あきらめるしかなかった

家では祖母と母が教育方針をめぐり対立、精神

に「不登校」となった。K-POPは、単身赴任中の父親がかつて、趣味でよく聴いていたものだつた。思わず「口ずさんでしまう軽快なメロディー。部屋で聴いていると、いじめをつかの間でも忘れることができた。

そんな時、学校の先生

へと、通い始めた。

「いじめ生徒の出席停止で

問題は解決しない。

五行易
大好評の
通信講座
●くわしい案内資料
日本易学センターY.A.I.
お申込料金:6,150円(税込)
お申込料金:6,150円(税込)
FAX:03-3945-1200
03-3945-5600

県教委 一律適用は間違い

県教育委員会は今年を「いじめ暴力行為防止強化年」とした。いじめた生徒の出席停止も検討される中、阿久沢栄・学校教育担当部長に考えを聞いた。

――いじめた子の出席停止は有効か。

――

なつたり、いじめている自覚がないこともある。一律に停学にするのは間違いた。いじめる側、いじめられる側双方のストレステーションを解消しなければ、懲罰すれば、バレないよう陰湿化する。

――いじめにどう対応すればいいか。

やっかみやからかいからいじめが始まる。いじめる子もいじめられっこも傍観者も、自分を大事な存在と思えるよう「みんな大切な一人」と呼びかけている。(稻田佳代)

にアンガージュマンよろすかの教室を勧められた。最初は嫌だったが、共有したわけではない。

不登校になった同年齢の女子生徒がいた。悩みを抱いていたが、集団生活になじめず、夏休み過ぎに退学。後悔はない。自分で救ってくれた韓国のお音楽が忘れられず、大学で韓国語を勉強するという夢がある。現在、自宅近くのファストフード店で週5日働き、残り2日は教室で1対1の個別指導を受け勉強している。

「自分たちと違うものを持つているからいじめの対象になる。そんな個性を、先生も生徒も認めさせてあげほしい」